

JAXA の吉川 産学官連携部長が資料 12-1(宇宙オープンラボ)を13分近く掛けて説明した後、JAXAの三輪田 同部 連携推進グループ長が加わり、16分程の質疑応答があった。(7件の新規提案の内 4 件を採択し、12 件の継続提案の内 10 件を採択した。継続提案の内 2 件は、資金は出さないが 6 ヶ月間の延長を認め、JAXA のサポートを継続して報告書の完成を目指す事になった。)(松尾委員長が海外出張で青江委員長代理が議長を務めた。)

青江委員長代理: 質問等御座いますればお願いします。

池上: 此れは集中ラボでは無くて、分散ラボですね、つまり筑波に集まってやるって、此れの話じゃ無いですね。

JAXA 三輪田: はい、此れ、専(もっぱ)ら、あの、提案者側の、まあ、企業なり研究者がメインとなって、JAXA の者と連絡を取りながらやると言う形をとります。

池上: ああ、そうですか。で、あとですね、此の添付 1 の方にですね、此処ですと「技術提案型」と「宇宙ビジネス提案型」って二つの類型があって、で、其れについて説明してある¹んですが、今回ののはね、どう言う風になってるんですか、皆さん技術提案型って言う事？

¹ 後で話が混乱して来るが、その原因は命名にありそうだ。「JAXA が要求する技術課題に応えた提案」と「自ら創案した提案」なのであろう。資料の添付 1 には説明が長々と有るが、此のポイントを明確に示していない。議論は「技術」と「ビジネス」と言う言葉に拘束されたものになってしまった。

JAXA 三輪田: 4 件のうち最初のは此れ技術提案型です。一寸ビジネス提案に見えるんですが、技術課題が科学本部から出て居りまして、斯う云う Web システムについての技術課題、此れに対する応募になって居ります。

池上: あ、あ、そうですか。

JAXA 三輪田: 2 件目 3 件目はビジネス提案、4 件目も商品化でビジネス提案で御座いますね。1 件目が技術提案。

池上: 2 番目も、紙飛行機がビジネス提案？

JAXA 三輪田: ええ、実はですね、此れはあの、えー、えー、一寸先程の中でもビジネス性は無いかと、勿論、あの、色々技術的な関門も有るんですけども、全体としては此れをビジネス提案と云う風に一応事務局では仕切らせて頂きました。一寸技術化ビジネスかって、非常にあの、特にビジネスでもどう云うビジネスかって云うのは、一寸あの、未だ曖昧なとこ御座います²けども、まあ、あの、普及啓発の、所謂、敷居を下げる様な提案と云う事で、ビジネス提案とさせて頂きました。

青江委員長代理: 書いてあるよ此れ、「開発を通したビジネスモ

² 「敷居を下げる」ことを命じられ、曖昧な儘スタートしたのだろう。「コマーシャルフィルムの作成」を許したのであるから、「単なる売名行為」だけ拒絶すれば良いのではないか。教材屋さんと言っではいるが、紙飛行機の実験を報道して貰う事によって、難燃紙が建設業界で売れば良いと云うビジネス構想なのではないか。この様な行為を相応しいとするかしないかの基準がはっきりしていれば良い。

デルを構築する」って書いてあるよ。

池上: ええと、ああ、そうですね。でも紙飛行機でビジネスモデルって、何か非常に面白い事やるんですね。

JAXA 三輪田: まあ、あの、余り大きなビジネスにならないと思うんですけども、まあ、斯う云うチャレンジしたいと云う事で御座います。

池上: ああ、そうですね。で、あと、その、ソリューション型と云うのは JAXA の方で問題を提起して、其れに対する答えと云う意味ですか。

JAXA 三輪田: はい、そうで御座います。

池上: そうすると、此れは JAXA の方から斯う云う事やって欲しいと言ったのに対して上がってきた？

JAXA 三輪田: ホームページ上に課題って、今、十数件掲示して御座いますが、其れに対する応募³となって居ります。

池上: そうですね。で、提案自体、非常に好奇心が湧く様な問題であると、確かだと思っております。で、あと、その、ファンディングの規模ってのはどの位なんですか？

JAXA 三輪田: 此れはですね、あの、此の制度そのものは、最大年間三千万と、で、最長3年間と云う事が謳って居りますが、まあ、一寸資金的な制約も御座いまして、三千万と云うのは殆ど御座いまして、まあ、数百万レベル、年間数百万レベルが平均的な。

³ こんなに明確な定義が有るのに、此処に至るまで触れる事が無かった。

【議事(1)】平成20年度第1回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

池上: 数百万てのは五百。

JAXA 三輪田: 五百から一千万の間位の辺りが平均的な規模になって居ります。

池上: でも中小企業にとっては大きなお金ですよ。

JAXA 三輪田: はい、と思います。

池上: 400万位でもホントに喜んでやってくれる筈ですから。あと、済みません、此のお金は受けた企業にとっては、どう云う位置付けになるんです？ やっぱり税金払わなきゃいけないで、収入になっちゃう訳？⁴

JAXA 三輪田: ウーン。

池上: 一寸其れを見てあげて下さい。結構地方でね、中小企業で金を貰ったんだけど、此れは収入と見做されちゃって、で、税金を払わなきゃいけないってんで、実質は此の金額が使えないんだって話を、前聞いた事ありますんで。

JAXA 三輪田: 此れは一寸、此処に扱いがどうなってるか、一寸、私ども⁵には分らないとこ御座いまして、

池上: 一寸良いですか、私学もね、国の金を貰うと、今大分変わったと思うんですけど、収入って云う、要するに税金の対象になる。ヒッヒッヒ。話も有ります。

JAXA 三輪田: 基本的には、あの、ピーカーを買いましたとか、そ

⁴ 当然税金の対象になるが、貰う方の事情による。NPOなら源泉徴収税は要らない。それより、知らない者同士が幾ら議論しても、話は先に進まない。

⁵ 「私ども」なのか、「私」なのか。「私」が知らないだけで、JAXAには詳しい人が居るだろう。無駄な議論を続けた理由の一つ。

う言う領収書ベースで全部費用的な清算をして居りますので、

池上: あ、じゃあ、企業の収入って言う風に見るのか、それともそうでない、要するに税金を納める必要が有るのかどうかって事です。

JAXA 三輪田: 確認しておきます。

青江委員長代理: 他如何ですか？

野本: あの、落ちた3件の提案と云うのは、良ければですけど、どう言うもので、どう言う理由で落ちたんでしょうか。

JAXA 三輪田: あのー、**これは落ちたものにつきましては、公表して居りません⁶**。一寸まあ、あの、入学試験なんかとあれです、落ちた方はまた再チャレンジって云う事も御座いますけれども、また次を目指して頂くと云うつもりで、非公表となつて居ります。

青江委員長代理: 一寸私からお願いしたいんですがね。3番目のやつですよ。所謂、今度の、GCOMでもね、或る種斯う云った風な所謂セッテイ(?)の状況と云うものを相当見る様にしていますけどネエ。それから、あのー、従前より、所謂、森林の消失、破壊を見て、アマゾンとそれからシベリアの方と、其れとインドネシアですか、そのー、まあ、消火乃至警察へ言ってとっ捕まえると言うんですかね。そう云う風なこう、もう動きが既に出来てますよね。度、そう云った風な今迄やってきた人たちのグループがもう少しアルゴリズム、一

⁶ 落ちた理由ぐらいは話してもいいだろう。

寸間違いが大きいからね、アルゴリズムをもう少し研究をしたいんだって云う風な事で以て、**今研究が為されてますね。そう云った風な事と広工大の先生を中心とした此れとね、何かおんなじ様な事やってる様に思える⁷**んですけどね。

JAXA 三輪田: 此のテーマにつきましては、どちらかと言いますと住友林業さんの方が、まあ、広大な森林の管理をしなくてはいけないと、しかも其れは海外にあると言う事ですね、中々地べたを歩いては調査が大変と云う処に、衛星データをずっと使いたかったと。唯中々その、色々論文は有るんですけれども、具体的にどう使って良いかって云うの、未だその少し研究要素があつてですね、此処をもう一寸専門家の方と一緒にやって、是非使う様になってきたいと云う事で提案頂いたものです。と云う事で一寸あの、**サイエンスと云うよりはもっと実利用に近い⁸**と云うことだと思ひます。

青江委員長代理: ウン、いや、あのね、と言ひますのは、だからそう云う風なことと云うのは、他でやっつる成果を若しですよ、

⁷ 確かに同じ事を行っている。先に情報入手した方を信じ易いのが人間の傾向ではあるが、青江委員の口調は明らかに千葉大の本多准教授が先進的であると信じきっているようである。広工大の菅教授は、ERSDACと一緒にリモセンをやって来た関係が、青江委員には認識できていない様である。実績を有する方であり、研究者は多いほど研究が進むので、結構ではないか。寧ろ、同じ事を大勢がやっているのは好ましい事であろう。

⁸ 全く答になっていない。千葉大の本多准教授もGCOM計画の中で実利用を目指している。

使えばもっとこう、良い、進んだ事が出来るのであれば其れの方が良いですよ。

JAXA 三輪田: はい、勿論、あの、そっちのサイエンスの、此の先生もご存知です。

青江委員長代理: だから広工大ってのは、あの、例のあれですね。植生を見て、農水省の今度あの一保険。

JAXA 三輪田: あっ、必ずしもあのテーマには関わって御座いませんけども、

青江委員長代理: は、関係ないの？

JAXA 三輪田: 一応此方の先生は、

青江委員長代理: 何にしても今迄やって来た研究成果と云うものを上手く使うと言いますかね、云う風になってますかって云う事だけなんですよ。

JAXA 三輪田: そう云う意味ではメンバーに此の、地球観測を 30 年来されている先生、加わって頂きました⁹ので、其処は後、まあ、科学的な研究の成果も当然ご存知ですので、其れも使って頂いて、後は現地でどう云う風にデータヒッチ(?) が把握出来るかとかですね、そう云う辺りを実際にやってみたいと言う事で御座います。

青江委員長代理: ウーン、ヘキムグリ(?) な話を以前聞いたもんですからね、あの、アラスカ大学の先生が来て、それから北海道大学の先生が来て、全くその泥炭の森林火災を検

⁹ 菅教授の事を指している。青江委員長代理は他の先生が知見を持っていると言っているので、話が噛み合っていない。

知をして、そしてなんかこう、消火をすると云う仕組みを今トライをしている¹⁰ んですね。其れと非常に良く似とるもんですからね。と云う事で非常に気になったんですけどね。

池上: ですから住友林業の方は、こう云う事については今迄あまりやっていなかったと云う風なこと？

JAXA 三輪田: 衛星データを使いたくて、一回買ってみたものの、上手く使えなかったと云う事で、もう一寸専門の方の知識を入れてやりたいと云う事で御座います。

池上: ああ、そうかそうか、例えば GCOM のデータなんかも使いましょうって話。

JAXA 三輪田: 何れは、そうですね。あの一、基本的には、将来的にはそう云うリモートセンシングのデータを買ってビジネスをすると云う業者¹¹ なるうかと思えます。

青江委員長代理: だから其処は非常に良い事なんですね。だから、其の時に、誰の知恵を使うのかと云うのが、非常にこう、研究の蓄積が色んな所にあるから、良い所と、良いノウハウを持った人と組む様にして上げた方が良いんじゃないですか。其処だけが気になったんですね。其の辺は少し聞いてみる。あそこのあの一、ええと、お宅のあの一、地球環境何とかかんとかと云うのあるじゃない、

JAXA 三輪田: ERC、ええ。

¹⁰ 此れは違う。千葉大の本多先生である。

¹¹ 答になっていない。二重投資になっていることを心配している。それだけ研究者が増えており、様々な試行錯誤をすることが、今世の中から要求されている事を答えなければならない。

青江委員長代理: ああ、そうそうそう。其処に良く聞いてみたら？

JAXA 三輪田: 其方の方にも一応、あの、繋いでやっています。

青江委員長代理: 此処、こう云うパートナーが一番良い組み合わせかと云うのは、良く聞いといて下さいよ。

JAXA 三輪田: はい、勿論、あの、この産学官連携部が受け皿なって居りますけれども、JAXA の関係する部門の研究やっける連中とは一応繋いでやらして頂きます。

青江委員長代理: はい。

池上: そうですね、ですから JAXA は多分最初はね、色んな知識を教えるって事になるかも知れませんよね。其処をちゃんとやって欲しいと云うんだけど、そうすると良く一般的に問題になるのは、特に旧国研の場合問題になるのは、産学連携がやってくれと言っても現場の方が忙しいよと、他に関心が有る事があるよって、中々動かないと云う例が多々あるんですがね、JAXA の場合其れだいじょぶなの？

JAXA 三輪田: ああ、勿論そう云う側面は御座います。唯、其処を私共が一生懸命突っついて、動かして行きたいと思って居ります。

青江委員長代理: 一寸余談になるんですけどね、このオープンラボの出身で、この前多屋先生が行ったやつって云うのも、オープンラボの出身なんでしょ。

JAXA 三輪田: はい、ええ、あの、オープンラボのテーマの一つで、ええ、ええ、

青江委員長代理: 所謂ムニャムニャ。

【議事(1)】平成 20 年度第 1 回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

JAXA 三輪田: 船内衣服で御座います。

青江委員長代理: あれはどうなったの。

JAXA 三輪田: あれははあの、実は未だあの、土居飛行士宇宙で何回か着ておりますけれど、まあ、評価結果は未だ、地上に戻って来てから入手致しますので、其の評価も含めて未だ今共同研究継続中で御座います。

青江委員長代理: 「良かった。」って言ってる？ 言ってない？

JAXA 三輪田: ええ、まあ、具体的には言っておりませんが、多分、そう云う評価も後で判ると思います。

青江委員長代理: ああそうですか。

池上: あ、一寸、今のに関連しまして、一寸プロセスの段階でね、どうも、その、JAXA の反応が余り芳しくないと云う話もあつたんですよ。それなりに一寸ウォッチをして頂き、上げていて下さいよ¹²。良く分かんないですけど、唯、向こうに居たらちゃんと多屋さんも居たからさ。フフ。

JAXA 三輪田: 途中で色々後心配頂きましたけれども、矢張りあの、物を持ってくに当りましては、中々日本だけでは決められない、NASA の関係部署と色々調整しなくてはいけないと云うとこ御座いまして、結構時間と労力を要します。そう云うとこで一寸あの、皆様方に語心配お掛けしたのですけれど、まあ、結果的には何とか持って行ける事になりましたし、今後についても或る程度は道筋は開けたと思っております。

¹² こんな細かい事まで宇宙開発委員会への報告事項になるのか。池上委員が話を聞いた時に、JAXA の誰かに一報入れておけば済む話であろう。JAXA の日常処理の範囲である。

す。

池上:じゃあ、一つの例として、もう一寸早くやれるような、手続きのやり方を経験したって云う事?

JAXA 三輪田:同じ様な事をやらなければいけないんですが、二回目からはもう一寸簡単に、迅速に出来るかと思えます。

池上:ええ、ああそうでしょうね。

青江委員長代理:もう一つお願いがあるんですがね。此れ始めてもう3年位経ちますかネエ?

JAXA 三輪田:はい3年一寸になります。

青江委員長代理:そう云う事ですネエ。あの一、何となく結果としては成績は、こう云うものにしては、所謂、千三つと言われるような世界にしては割合、成績は良いかなって云うような感じは有るんですけれどもね、その一、やっぱり、まあ、此のシンノウ(?)のレビューと言いましょかね、所謂、どう云う風なこう云うアウトプットが出て来て居るのか、やっぱり、良く見ておく様に心掛けといて欲しいんですけどね。その、ズルズルと、ええと、こう、ジャパンリード(?)で、テーマをずっと重ねて行くと云うだけにしないで頂きたい¹³と。

JAXA 三輪田:はい、あの一、丁度あの、最初3年間の共同研究の制度で、19年度で3年間で卒業すると云うテーマ結構御座います。先程12件継続と御座いましたが、実は本年度は25件やって居りまして、まあ、途中で3件が追加になっ

¹³ 此の言い方は無いだろう。「開発研究成果の報告は考えていますか?」と言え、同じ答が返ってきて、もっと穏やかな質疑応答が出来る。しかも本文末尾に「4月以降に報告する」とある。

【議事(1)】平成20年度第1回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

てますけども、其れはあの一、要するに半分は卒業すると云う事になって居りますので、これ等も含めましたまた、先程一寸有りましたが、4月以降に一覧表の形で、成果を纏めさせて頂きたいと思つて居ります。

青江委員長代理:と云う事で、ホントに此の制度がですね、所謂、効果を発揮しているのかどうなのか、仕組みとしてね、其処は一回一寸、検証してみたい¹⁴ですね。

JAXA 三輪田:そうですね、まあ、其れを見て頂いて、まあ、ご議論頂きたいんですが、まあ、あの、他の所謂単にお金を研究助成して、お終いと云う制度よりは、所謂、成果に打率が高いと言いますか、繋がっている比率は高いのではないかと自負はして居りますけれども、引き続き其の様に努力はして参る心算で御座います。

青江委員長代理:何となくサップ(?)をこうヘンカ(?)ってタイプのあれじゃないけれどもね、少しく話題になると云ったあれ、ホントに実が上がってるのかどうなのか、其処が気になるんですね。まあ、そう云う事なんです。

池上:で、で、で、つまり、こう云う事をやることによってね、JAXAの研究者、技術者のマインドがどの位変わったかと云う事もどっかで言って下さい¹⁵よ。多分其方、要するに其方が苦

¹⁴ 確かに其の通りではあるが、誰に出す注文だろうか。目の前に居るからといって、担当者に出す注文では無い様に思う。

¹⁵ 思い付きの様に、この様な測り難い注文を出して良いのか。報告する度に注文を出していると、JAXAは報告を逃れたいと考えるようになってしまわないか。

労してる話と直接結び付くと思うんですけどね。ひょっとしたらこんな事はホントはやりたくないよってな事を考えてるかも知れない¹⁶。研究所のマネージメントって云う意味でね、一寸もう一度其処を点検しておく。もう一つ気になるのはですね、その、技術提案型の中で、「原則本部が実施主体となり」¹⁷と云う意味は此れはどう云う意味なんですか。

JAXA 三輪田:あの一、元々はですね、此れあの一、単なる技術提案であれば、「先行研究」の形で色んな本部が既に出来る訳なんですけど、敢えてオープンラボでやって居りますって云うのは、矢張りその、まあ、そう云う先端の技術って云うのもあるんですが、もう一つはビジネス性があるかどうかと云う、産学官連携部としてはそう云う目で篩に掛けてやって居ります。だから、単に他の本部がやってる先行研究とは一寸一線を画して、少しは民生への広がりも有るような技術課題を或る程度採択していると。

池上:そうすると、「原則本部が実施主体となり」と言うのは？

JAXA 三輪田:ええ、あの、技術的な問題を解決する部分は、其処で、各本部が主体になりますけども、其の後半部分につきましては、私どもも一緒になりまして、民生への展開¹⁸など

¹⁶ 凄く発想を飛躍させたものである。しかし、「各本部の先行研究で取り上げず、オープンラボの「技術提案型」リストに掲載されるものとは何か？」と云う疑問は生じる。

¹⁷ 添付1の『「技術提案型」案件』の中程の記載事項。

¹⁸ 此れは虫の良い願望ではないか。各研究本部が先行研究に取り上げなかったものが、一般市場にも出せるものになるのか。

【議事(1)】平成20年度第1回「宇宙オープンラボ」の選定結果について

についてもやっております。

池上:ああ、なるほどね。ああ、そう云う意味ですか。其方からご覧になっての事はね、つまり、一寸言葉変えると各本部は、ホントはやりたくないけど、やらせる様な事も有ると。

青江委員長代理:そう云う事ですか、要は。

JAXA 三輪田:まあ、其れも有りますが¹⁹、あと、勿論本部の担当がやりたくて、中々、唯、本部の中では順位が低くて採用されなかったけれども、産学官連携部では採択されたと云うものも御座います²⁰。必ずしも、みんな、嫌々やっている訳では御座いません。

青江委員長代理:はい、宜しゅう御座いますか。どうも有難うございました。

¹⁹ 認めてしまって良い事なのか。

²⁰ 説明の範囲では納得できないが、「各研究本部で作成された先行研究リストを基に、最終的に選考されなかったものを産学官連携部で審査し、一般市場への展開が可能と思われるものを抽出した。」と云う事なのか。そうなら、「採択されたもの」ではなく、「採択されたもので」と言わなければならない。